

# 地域調査報告

第 25 号

2003 年 3 月

筑波大学地球科学系  
人文地理学研究グループ

# 地域調査報告

第 25 号

2003 年 3 月

筑波大学地球科学系  
人文地理学研究グループ

平成14年度筑波大学学内プロジェクト研究 研究助成（B）  
「長野盆地の地域変容に関する文化層序学的研究」報告書  
（研究代表者 斎藤 功）

## 序

「信濃の国は十州に 境連ぬる国にして…」で始まる県歌『信濃の国』の歌詞は、長野県の地理的多様性を反映し、その地誌的な特徴をみごとに表現したものである。長野県は、山脈の配置および歴史的事情から、伝統的に北信、東信、中信および南信といった4地域に区分されてきた。しかし、これら4つの地域内にも住民の気質や風土にさまざまな差異がみとめられる。かつて、市川健夫が長野県を「信州合衆国」と名付けたように、長野県は独自の地域性を有した地域の連合体ととらえることができる。それは、日本の東西文化の接触地である長野県には、流域や盆地ごとに独自の地域的・文化的特徴が存在するからである。

筑波大学大学院地球科学研究科の地誌学野外実験は、過去3度、松本盆地を中心として実施されている(『地域調査報告』7, 17, 23号)。今回は、長野県のこうした地域的多様性を考慮し、長野盆地および上田盆地を調査地域とした。両盆地とも千曲川の中流域に位置するといった点では類似点があるものの、それぞれ異なった風土も有し、また松本盆地とも性格が異なっている。長野市は長野盆地の中心都市としてしばしば松本市と対比されるが、県都としての行政機能、中心地機能が高い。また、たとえば須坂市と上田市は、ともに工業都市としての機能を有しているが、その性格は異なっている。盆地を取り囲む海拔高度の高い山地では、東京からの近接性の高さに基づいて、観光地域としての性格を強めてきた。東京により近い東信地域では別荘地の立地が卓越するのに対し、北信では積雪に恵まれるためスキー場が集積している。

地誌学野外実験は、2001年9月と2002年6月の2年にわたってそれぞれ一週間ずつ実施された。2001年は須坂市を拠点として大学院生10名が参加した。2002年は菅平高原を拠点に14名が参加した。地誌学・人文地理学分野の大学院生に加え、自然地理学分野の大学院生の参加もあり、巡検中のゼミでは活発な議論がなされた。例年通り、大学院生は各自の研究テーマを発展させるかたちで調査に臨んだ。2002年については、一部の大学院生は須坂市および菅平高原において教官とともに共同調査を実施した。本書は、この野外調査の結果をまとめたものであり、その内容は長野・上田盆地地域の地域的多様性を反映して多岐にわたっている。なお修士号取得者の多くは、調査結果を学会等で独自に発表し、学会誌へ投稿するかたちで準備を進めている。これも本地誌学野外実験の大きな成果であろう。

2年次にわたる現地調査に際しては、長野県庁の関係部署をはじめ、多くの市町村の関係機関の方々には貴重なご意見をいただき、資料の提供・閲覧などの便宜を図って頂いた。また聞き取り調査に訪れた農家、宿泊施設、企業でも親切に対応して頂き厚く感謝する次第である。本報告書が長野・上田両盆地の人々にとって何らかの役に立つことができれば、望外の幸せである。

2003年3月

齋藤 功  
手塚 章

# 目 次

序 .....	齋藤 功 手塚 章	
長野県菅平高原における高冷地野菜栽培の特色 .....	上江洲朝彦 ..... 仁平 尊明 手塚 章	1
菅平高原における観光形態と土地利用の変容 .....	新藤多恵子 ..... 内川 啓 山田 亨 呉羽 正昭	19
製糸都市須坂における歴史的景観の保全 .....	大橋 智美 ..... 和泉 貴士 小田 宏信 齋藤 功	47
須坂市豊洲地区における人口高齢化 .....	佐藤 慎吾 ..... 71	
上田・坂城地域の鋼材工具商社における 技術情報流通システムの実態 .....	藤田 和史 ..... 81	
観光業におけるインターネット活用 - 斑尾高原における宿泊施設を事例として - .....	近藤 浩幸 ..... 93	
長野県における新聞配達圏 .....	村沢 修 ..... 103	

## 地域調査報告 第25号

---

2003年3月 印刷・発行

発行 筑波大学地球科学系人文地理学研究グループ

(代表者 高橋伸夫・斎藤 功)

(編集幹事 呉羽正昭)

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話 029 - 853 - 4510

印刷 株式会社 イセブ

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 2-11-20

電話 029 - 851 - 2515 (代)

---